

平成 27 年
7 月 2 日

病害虫発生予報 7 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

平成 27 年度茨城県農薬危害防止運動期間中 (6/15～9/14)

～農薬容器の移し替えは誤用のもと！適切に保管しましょう～

< 目 次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(葉いもち)・・・・・・・・・・・・・・・・	1
水稲：斑点米カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【防除所レポート】：6月下旬のイネ科雑草におけるカスミカメムシ類の 発生状況について・・・・・・・・	2
ナシ：黒星病・・・・・・・・・・・・・・・・	3
【防除所レポート】：ナシヒメシクイの防除適期の予測・・・・・・・・	3
夏ネギ：ネギアザミウマ・・・・・・・・・・・・・・・・	4

【その他の病害虫】

水稲，サツマイモ，ナシ，ブドウ，果樹共通，夏ネギ，夏秋ナス・・・・・・・・	5
---------------------------------------	---

II. 今月の気象予報 6

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。

最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、本田における葉いもちの発病度¹⁾は平年よりやや低く（本年値 0.04, 平年値 0.2), 置苗に葉いもちが発生している圃場は平年よりやや多い(置苗発病圃場率 本年値13%, 平年値7%)。
- ② 6月下旬現在、水戸市の県予察圃における発病度は平年よりやや高い(本年値 0.5, 平年値 0)。
- ③ 6月におけるいもち病の感染好適日（BLASTAM²⁾による）は、6月第5～6半旬に県内の広範囲でみられた。
 - 1) 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。
 - 2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田及びその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。
- ② 稲の葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努める。
- ③ 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも今後とも注意する。
- ④ 発生がみられる水田では、防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して、湛水状態を保つ。

(水稻 続き)

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測したクモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年よりやや早い。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草におけるカスミカメムシ類の発生地点率は平年よりやや高い～高く、すくい取り虫数は平年よりやや多い（防除所レポート参照）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。
- ④ ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。

防除所レポート [6月下旬のイネ科雑草におけるカスミカメムシ類の発生状況について]

- ① 6月下旬現在、斑点米カメムシ類の一種であるアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメのイネ科雑草における発生は、平年より多い。特に鹿行、県南地域で平年より多い発生となっている（表）。
- ② 本県における斑点米カメムシ類の主要種は、クモヘリカメムシであるが、他県ではアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメが主要種となっている地域も多く、本種の発生にも十分注意する。

表 6月下旬のイネ科雑草におけるカスミカメムシ類の発生状況

		イネ科雑草におけるすくい取り虫数（頭/10回振り）						発生地点率（%）	
		全県	県北	県央	鹿行	県南	県西	全県	
アカスジカスミカメ	本年	4.4 (1)	0.0 (5-11)	1.2 (4)	5.0 (1)	9.2 (1)	0.3 (9-10)	30.0 (3)	
	平年	1.7	1.8	1.0	0.8	1.9	3.3	18.5	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	7.5 (2)	2.8 (7)	6.6 (1)	4.3 (2)	9.1 (1)	10.0 (3)	78.0 (1)	
	平年	3.0	3.3	1.9	1.4	2.9	6.3	40.8	

※（ ）内は本年を含む過去11年間における順位

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，果実における発病率は平年より高く（本年値 0.8%，平年値 0.3%），発生地点率は平年よりやや高い（本年値 53%，平年値 38%）。
- ② 6月下旬現在，葉における発病率（本年値 0.7%，平年値 1.0%），発生地点率（本年値 63%，平年値 63%）はともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため，見つけ次第除去して土中深く埋める等，適切に処分する。
- ② 薬剤散布は，発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

（平成 27 年 5 月 28 日発表 病害虫発生予察注意報第 1 号参照）

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は，第二世代成虫の誘殺数がピークに達した日の直後(1～2日後)である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は，第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市，土浦市，筑西市(旧下館市)については，今後，病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第三世代幼虫の予測防除適期

地点	第三世代幼虫の予測される防除適期 ¹⁾		
茨城町	7月17日	～	7月21日
笠間市(旧友部町)	7月16日	～	7月20日
笠間市(旧岩間町)	7月21日	～	7月24日
小美玉市	7月21日	～	7月25日
石岡市	7月12日	～	7月15日
かすみがうら市	7月8日	～	7月12日
土浦市	7月12日	～	7月15日
筑西市(旧下館市)	7月8日	～	7月12日
筑西市(旧関城町)	7月15日	～	7月20日

1) 予測した第二世代成虫の誘殺ピークの1～2日後とした(7月2日現在)。

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害度*は平年よりやや高く（本年値 35.6，平年値 26.7），芯葉の被害株率は平年より高い（本年値 92.0%，平年値 63.6%）。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生源となる圃場周辺の除草を徹底する。
- ② 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を行う。なお，農薬を散布する際には使用回数，収穫前日数に十分注意する。
- ③ 防除後も，土中の蛹が新たに羽化したり，葉内に産み付けられた卵が孵化するので，多発生した場合は1週間間隔で複数回防除する。なお，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 県内ではピレスロイド系剤（IRACコード：3A）の殺虫効果が低いネギアザミウマが確認されているため，使用した際には必ず効果を確認する。
- ⑤ 薬剤散布は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。

（平成27年6月18日発表 病害虫速報 No.2 参照）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量:多い	6月下旬現在, 県央, 県南, 県西地域において発生を確認している。ヒメトビウンカの発生状況等については, 平成27年6月18日発表の「病害虫速報 No. 3」を参照。
	イネツトムシ	発生時期:早い 発生量: -	6月下旬現在, 平年より早い発生である。7月中～下旬に発生が多い場合には, 幼虫が小さいうちに防除を実施する。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量:平年並 ～やや多い	6月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量: やや多い	6月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	ナシヒメシンクイ	発生量: 平年並 ～やや少ない	6月下旬現在, 平年並～やや少ない発生である。
ブドウ	褐斑病	発生量: 平年並	6月下旬現在, 平年並の発生である。
	晩腐病	発生量: 平年並	6月下旬現在, 平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
	べと病	発生量: 平年並	6月下旬現在, 平年並の発生である。
果樹共通	チャバネアオカメムシ	発生量: 少ない	6月下旬現在, 平年より少ない発生である。
夏ネギ	さび病	発生量: 多い	6月下旬現在, 平年より多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量: 平年並 ～やや多い	6月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
夏秋ナス	ハダニ類	発生量: やや多い	6月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量: 平年並 ～やや多い	6月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月4日から8月3日)

気象庁(7月2日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 7月4日(土曜日)から7月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<2週目の予報> 7月11日(土曜日)から7月17日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 7月18日(土曜日)から7月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類* (FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成27年4月28日発表)の防除所レポート参照